

プログラム期間 2019年10月から2020年2月

チームでの応募
も歓迎!



第3回ブロックチェーン学生起業家 支援プログラム 参加者募集

ブロックチェーン技術を用いた起業を支援するプログラムです。2019年10月から2020年2月の約4ヶ月半の期間中、参加学生は自身でブロックチェーンに関連する事業の立案と、アプリケーションの実装を行います。

事業事例:

- ・ ブロックチェーンを活用した新たな金融機能(決済/送金/ファイナンス/信用判断/認証等)
- ・ 権利証明サービスへの適用のためのブロックチェーン技術の開発と、多様な家族関係証明サービス(eg. 婚姻証明書)への実践活用
- ・ ブロックチェーン技術のスポーツビジネスへの実践活用
- ・ その他自分自身で取り組みたい事業テーマ



10月

11月

12月

1月

2月

進捗報告会

進捗報告会

進捗報告会

最終報告会



人的サポート

最高の講師陣

上場企業、ベンチャーキャピタル、ベンチャー企業、Tech系企業、ブロックチェーン専門企業、法律家などで構成されるパートナー企業、協力企業・団体から事業立案、アプリ開発など様々なアドバイスを受けることができます。

実際の事業化につなげます

参加企業とコラボレーションを行い、実際の事業化につなげていきます。



環境サポート

本郷キャンパス内にある専用スペースの使用権が与えられます。専用スペースは、グループワークで使用できるスペースの他、完全個室で知的活動に集中できるスペースが提供されます。



専用スペースでは大型4Kモニターを完備。昇降機や高級チェアなど快適な作業空間を提供します。



資金サポート

報酬45万円

参加者(参加チーム)には、プログラム期間を通して最大45万円の報酬が支払われます。

個人予算10万円

報酬と別途、10万円の予算が与えられます。参加者はこの予算をプログラム期間中に自身の事業計画立案、アプリケーション開発のために使用することができます。

対象

プログラム期間中、学生(大学生、大学院生、専門学生、高校生、高専生、...)であること
個人またはチームでの参加
採用人数10名(チーム)程度

東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻
ブロックチェーンイノベーション寄付講座
<https://www.blockchain.t.u-tokyo.ac.jp/pg2019a@blockchain.t.u-tokyo.ac.jp>



応募方法

課題A, 課題B, 課題Cの少なくとも1つを提出してください。課題の成績により選考の次のステップに進むことができます。

早期応募締め切り: 2019年8月18日(日) 24:00

応募締め切り: 2019年9月1日(日) 24:00

可否結果は、9月中旬頃までにご連絡します。

※ 早期応募締め切りまでに提出されると選考に有利です。

課題A

- (1) あなた独自の暗号資産(仮想通貨)を提案し、そこで想定しているターゲット利用者、通貨の設計、経済圏の全貌を説明してください。
- (2) Ethereumは独自通貨(トークン)を発行できる代表的なプラットフォームです。さらにもう一つ、Ethereum以外の独自通貨を発行できるブロックチェーンプラットフォームを選び、Ethereumとそのプラットフォームそれぞれの概要をまとめてください。そしてそれぞれの利点について整理しあなたの独自通貨はどちらのプラットフォームにて発行したほうが良いか論じてください。
- (3) (2)での結果を踏まえ、Ethereumもしくは(2)で選択したプラットフォーム上であなたの独自通貨について開発を行い、以下の(i) (ii) (iii)を提出してください。メインネットにてデプロイ・通貨発行を行うことはせず、テストネットやローカル環境にて開発を行ってください。
 - (i) 実装を行ったソースコードを提出してください。
 - (ii) 動作方法、即ちどのような環境・手順でビルド、実行できるのかの説明書きを提出してください。動作環境(Mac, Ubuntuなど)、動作環境の構築のための手順も必要です。環境構築用のスクリプト(シェルスクリプトや、Ansibleなど)があるとベターです。採点者がビルド、実行できない場合は採点されない場合があります。
 - (iii) 今回実装できなかったところについては、今後の追加開発を行う際の展望を記述してください。

※ (1)に記載する内容について必ずしもすべて提出ソースコードに実装されている必要はありません。(1)では自分が考えた理想的なアプリを提案し、(3)におけるアプリの実装においては、限られた時間の中で自分が必要だと考える機能の優先順位を考え、優先度の高い順番に実装を行ってください。

課題B

ブロックチェーンは記録された情報は改ざんされないことが知られていますが、記録をする際に信頼できる情報がどうか問題となります。

- (1) IoT, M2M, SCM領域を始めとしたブロックチェーンの応用例ではセンサーデバイスから取得したデータをブロックチェーンを活用して記録するものがあります。既存のブロックチェーンプロジェクトの中から、デバイスからの情報を記録することが想定されているものを一つ選んで、ホワイトペーパーや公開情報をもとにプロジェクトの概要をまとめ、さらに以下の3つの観点からどのようにデバイスを信用する設計になっているか整理してください。
 - 新しいデバイスが追加されるとき、それを信用できるデバイスであるかどのように確立するか。
 - デバイスがデータ送信された際、それが信用されたデバイスであるかどのように確認するか。
 - 送信されたセンサー情報について、その信頼できるデバイスから得られた情報であるかどのように確認するか。
- (2) (1)で選んだブロックチェーンプロジェクトの技術的な問題点を指摘してください。そして、その問題点を改善する改善案を述べてください。その際に、あなたの改善案がなぜその問題点を改善できるのか、改善案を採用したことで新たな問題点が現れないかなど、適用に関して具体的に発生し得るであろう課題も含めて論じてください。

課題C

あなたが、すでに何かしらのソフトウェアプロダクト開発を行った事がある場合はそのソースコードを提出してください。GitHubなどで公開されているプロジェクトの開発を行っている場合はそのURLを、そうでない場合はコードとドキュメントを提出してください。ただし、当プログラムのために新しく作成したものではなく、前々から開発しているものに限ります。複数人で開発を行っている場合は、自分のプロジェクトの寄与度がわかるような説明も一緒に提出してください。

※ ここで提出されたソースコード、ドキュメントは選考のみに使用されその他の目的に使用されることはありません。

※ ブロックチェーン関連のプロダクトでなくても構いません。

提出方法

以下のメールアドレス宛に、課題の回答がダウンロードできるようにクラウドストレージなどのURLをお送りください。クラウドストレージサービスはDropbox, Google Driveなど、どのサービスでも構いません。一方、メールに直接zipなどでまとめて添付することは避けてください。提出の際には、履歴書(大学名, 学部, 学科/大学院名, 研究科, 専攻など現在自分が所属している学校の情報と学年, 氏名, 顔写真を含む)も添付してください。

提出先: pg2019a@blockchain.t.u-tokyo.ac.jp